

高能力和牛の受精卵を ホルスタインに移植しました！

栃木県畜産酪農研究センター芳賀分場から本校へ、和牛の受精卵の提供があり、平成27年7月29日(水)に、ホルスタイン種の雌牛に受精卵を移植しました。

受精卵の移植は、本校の牛舎で芳賀分場の大島特別研究員が実施し、現在、家畜人工授精師養成講習会を受講している畜産経営学科の2年生が説明を受けました。



大島特別研究員による受精卵移植の様子

この受精卵の系統は、母牛が畜産酪農研究センター芳賀分場で飼養されている高育種価のスーパー和牛で名号「よしのゆめ(父:百合茂、母の父:第一花園)」、父牛は抜群の脂肪交雑能力で県内だけでなく全国的に人気となっている「美津照重」で、家畜市場で高く取引される系統の組み合わせとなっています。

受精卵移植はとても高度な技術が要求されるため、受胎率は40%程度ですが、受胎が確認できれば、来春に高能力な黒毛和種子牛の誕生が期待されます。



大島特別研究員による受精卵移植技術の説明